



1. 風疹は妊娠初期の妊婦にとって大変危険です！

風疹自体は古くからある流行性感染症で、重症化は稀(0.1%以下)です。なので、基本的に一般成人自身への風疹による健康影響は風邪の程度と考えると結構です。

しかし、妊娠初期の妊婦に感染すると、流産の増加や胎児に障害を残す恐れがあります(先天性風疹症候群)。同症候群児が近年増加した為政府は対策を強化し、医療機関から直ちに保健所に報告され、感染拡大防止対策をとるべき感染症に指定されました。

風疹の特徴

潜伏期※	2～3週間 (※感染から発症までの期間)
症状 (必ずしも全て出現せず)	発熱・全身発疹・リンパ節腫脹* ・かぜ症状(*発熱1週間前から出現することがある)
感染様式	原則として接触・飛沫感染 (空気感染力は低い)
感染力	インフルエンザの約3倍

2. 29歳(2019.4.1時点)以上の者はワクチン接種が不十分な可能性がある

風疹の2回予防接種は29歳(2019.4.1時点)未満の者でしか実施されていません。風疹の予防接種では1回では20人に1人、2回では100人に1人抗体がつかない方がおり、その結果30代～50代位の者で特に感染しやすくなっています(それ以上の年代では小児期に風疹の市中流行していたので自然免疫獲得者が多い)。

政府は予防接種事業を進めており、まず2019年度は40-47歳の者に風疹抗体検査無料クーポンを配布し、抗体が少ないと確認された者はワクチン無料接種の対象になります。早めに受診して下さい。



風疹ワクチンの予防接種の状況(2018年9月1日時点) * 国立感染症研究所 感染症疫学センター「首都圏における風疹急増に関する緊急情報: 2018年9月12日現在」を基に作成、日経Gooday 30+、2018/9/28

生年月日	ワクチンの通常接種歴
～S37.4.1	なし
～S54.4.1	女子のみ 1回(中学時)
～S62.10.1	男女とも 1回(中学時)
～H2.4.1	男女とも 1回(幼児期)
H2.4.2～	男女とも 2回

【2019年度抗体検査無料クーポン対象(昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生)以外の方は...】

・47歳-57歳の方(昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生)

来年以降抗体検査無料クーポン配布予定(自治体(保健所)に申し出れば今でもクーポンがもらえる)

・40歳未満の方: 妊娠希望女性及びその配偶者ないし同居者は抗体検査が無料で受けられます。

ワクチンについても、多くの市町村で助成が行われていますので、各居住市町村に問い合わせ下さい。

・上記に該当しない方でも各医療機関で自費で検査・ワクチンを受けることは可能です。

3. 日常的な感染予防と、流行時には周囲に広げないための予防行動を！

風疹はなにより感染拡大防止が重要です。日常的な感染予防(手洗い・消毒)を引き続き行っていくとともに、感染して発症した可能性がある場合(とくに、発熱(37.5℃以上)・発疹が出現した時)は出勤せず、医療機関を受診するとともに静養に努め発疹等の風疹症状が出てこないか注意して経過を見て下さい。

とくに流行しているときには、インフルエンザ流行時と同様に、朝検温するなどして体調の確認をして下さい。また、保健所等からの指示がある場合には、それに従ってください。

また、学校保健法では風疹は「発疹消失まで(一般に発症から3～4日)」出席停止すべきとされています。発症期間(約1週間弱)はできれば自宅静養して下さい。少なくとも発熱している間は出勤すべきではありません。判然としない場合は、医療機関ないし産業医と御相談下さい。

万が一、出勤時に発熱を伴う風邪症状、発疹、その他風疹に疑わしい症状が出現した場合には、速やかに健康管理室に連絡し、対応を相談して下さい！

健康管理室には、原則事前に感染を疑う旨の連絡の上お越しください！

(健康管理室内での感染拡大防止の為)

